

ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローバルリーダーの育成

将来、地域の課題に立ち向かうグローバルリーダーとして国内外で活躍する人材を育成するために、地域の行政機関や専門組織、大学等研究機関、企業等と協働して教育プログラムを開発する。具体的には地域とのコンソーシアムを構築しながら「山東探究塾」（総合的な探究の時間）等の取組及び授業改善を行う。

管理機関である山形県教育委員会の下、山形県立山形東高等学校が、山形市、公益社団法人山形県観光物産協会、東北芸術工科大学、山形経済同友会とのコンソーシアムを構築し、連携機関として山形大学と東北大学の協力を得ながら、地域と協働して、目指す人材育成のための教育プログラムを実践している。

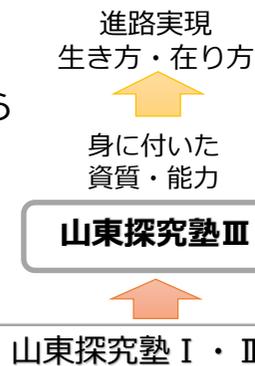
また、運営に当たっては、上智大学教授 奈須正裕氏、山形大学准教授 森田智幸氏、一般社団法人i.club代表理事 小川悠氏の他、地域・保護者代表として米本泰氏・長谷川吉之介氏の指導・助言を受けながら研究開発に取り組んでいる。

令和2年度の目標

* 探究型学習による授業改善を推進するために、早期に外部指導者を招聘して職員研修会を開催する。

* 「山東探究塾Ⅰ・Ⅱ」の成果をまとめ、自らの進路実現や生き方・在り方に活かすような「山東探究塾Ⅲ」の教育プログラムを構築する。

* 「山東探究塾Ⅰ・Ⅱ」や海外研修の改善を図りながら、本事業の成果を職員間で共有し、新カリキュラムや教育プログラム等に反映させる。



取組状況

* コロナ禍の影響で、前期に集中する「山東探究塾Ⅲ」は計画どおりに進まなかったが、「山東探究塾Ⅰ・Ⅱ」はICTを活用し、一部オンラインを取り入れるなど工夫しながら、職員研修とともに、ほぼ計画どおり実施した。

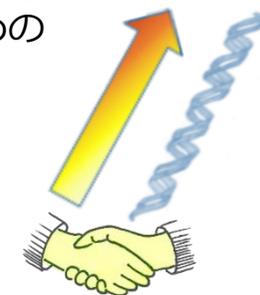
* 長引くコロナ禍の状況から、海外研修及び代替の沖縄研修も中止せざるを得ず、地域人材を活用したり、オンラインで繋いだりしながら、英語発表会や国際交流を実施した。

成果と課題

* 事業に取り組む成果により、コロナ禍においても、工夫しながら探究活動に取り組むことができた。

* 地域と協働して取り組んだ探究活動で育まれた資質・能力を検証し、「ふるさとやまがた」に思いを寄せながら、困難な課題に立ち向おうとする生徒の育成のための教育プログラムを構築する。

* 地域コンソーシアム機関や連携協力機関等と連携を密にしながら、事業終了後も自走可能な体制の構築を図り、来年度2月に事業の成果を地域に還元する。



学校

地域